

令和3年度 はねかわ保育所
年間事業活動報告書

【保 育 総 括】

基本方針

地域の豊かな自然や人々の温かいまなざしの中で、保育者一人ひとりが『あたたかく、やわらかく、ゆったりと』を合言葉に子どもたち同士がそのつながりのなかで学びあい、将来にわたり生きる力を育むことができるよう、次のことを大切にします。

- 一人ひとりの子どもの心、思いに丁寧に寄り添います。
- 家庭や地域社会と連携し、共に子どもの育ちを支えます。
- 地域の自然や伝統文化を保育に取り入れ、様々な体験を通して豊かな感性と健全な心身の発達を支えます。
- 友だちとの遊びや生活を通じて、自分のことだけでなく友だちや命の大切さを伝えます。

保育目標 育ってほしい子どもの姿

- 明るく元気に遊ぶ健やかな子ども
- 思いやりのある子ども
- 相手の思いに気づき、自分の思いを表現できる子ども
- 生活習慣を身につけ健康に過ごす子ども

令和3年度は前年度に引き続き上記の基本方針・保育目標を念頭に保育を実施し、秋田市へ報告すべき重大な事故もなく1年間を終えることができた。

(1) 全体として

4月在籍児30名でスタートし、途中入退所を経て3月末には在籍児が34名となった。

途中入所は0歳児クラスに7月1名、9月2名、10月1名、11月2名の計6名であった。母親の就労、母親の病気療養の為であった。

途中退所は2名。(1世帯)県外に転居のため3月中旬に引っ越した。

年間を通じての保育認定については、標準時間認定であった。

職員の状況は、保育士1名が7月に1年間の育児休業から復帰した。

常勤職員15名(内保育士12名)、パート職員2名(保育士1名、調理補助1名)でスタートした。

(2) 保育実践

基本方針にもあるように、地域の豊かな自然や人々の温かいまなざしの中で、保育者一人ひとりが「あたたかく、やわらかく、ゆったりと」を合い言葉に、子どもたち同士がそのつながりのなかで学び合い、将来にわたり生きる力を育むということを大切にされた保育を実践してきた。

子どもたちは、コロナ禍のなか下浜の豊かな自然に親しみ、のびのび生活していくことで、心も体も成長することができた。

園内外の行事が縮小や中止となったが、様々な工夫をして保育を実施することができた。

安全を確保した上で全クラス天気の良い日は外遊びが中心となった。地区内の散歩では、自然の恵みを四季折々に体感し地域の方とのふれあひもたくさん経験できた。広い園庭での土手山探検、固定遊具での遊び、ままごと、鬼ごっこ等存分に楽しんだ。乳児クラスは外遊びや散歩をたくさん

経験した。足取りもしっかりし歩行も安定してきた子どももいるが、まだおぼつかない子どももいるため、一人ひとりの成長に合わせて保育をしていくようにした。幼児クラスも外遊びを存分に楽しむことで、心も体も逞しく育っている。

幼児クラスは、主に単独クラスで過ごすことが中心だった。クラス活動を充実させることができた。場合により合同保育を行うこともあったが、年上児から年下児は様々な遊びを真似し、年下児の面倒をみようとする姿もあった。年下児は憧れを持って過ごす姿もあった。その中で相手のことを思いやる姿もみられた。

乳児クラスは、室内外で元気いっぱい過ごすことができた。2歳児は単独で過ごしたり、時には3歳児クラスとも交流を持ったりして元気に過ごすことができています。1歳児は0歳児と一緒に過ごしたり、単独でお散歩に出かけたりとゆったりと過ごすことができた。0歳児は7月からの途中入所があり、その都度、子どもたちが安心して過ごすことができるように保育者同士で話し合いをも持つことで、子どもたちものびのびと生活することができた。

各年齢に合わせた生活習慣を身につけ、健康に過ごす子どもを育てるために家庭や保育所での様々な情報を交換しながら日々の生活の健康と安全を守るよう努めることができた。

4、5歳児が「羽川剣ばやし」を体験するものの3年度も、発表の場が少なかった。発表に向けて練習をするものの、中止になることで子どもたちや保育者のモチベーションが下がってしまうこともあった。保育所以外（地域との交流会）での発表が子どもたちの成長にとっては必要であることを再認識した。

羽川剣ばやしの音色に誘われ、小さい子どもたちも見学をし、太鼓をたたき真似をする姿も見られている。自分もやってみたいという気持ちも出てきている子どもたちもいることは嬉しいことである。

子どもたちと一緒に畑で野菜を育てた。食育の観点からも、野菜の生長を間近に見て育てることで、食べることに意欲を持たせたいと思いのもと進めた。実際に実りに喜び、栽培した野菜を使ってカレー作りや、おやつ作りを体験した。

1) 行事の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の予防対策として行事を縮小や中止をしたが、できる範囲で工夫をし、子ども、保護者と一緒に楽しめるようにした。

- ・わかばWalk～幼児クラスがつくし森に登り、クリスマスローズを見て春を楽しんだ。
珠林寺さんにお世話になり、バス時間まで待機させてもらった。
- ・春の防火パトロール～下浜消防分団の協力を得て羽川地区のパトロールを実施した。
下浜消防分団の方から消火器の使い方の指導を受けた。
- ・秋の防火パトロール～下浜消防分団の協力を得た。悪天候だったため、ぞう組が消防自動車に乗り、羽川地区に「火の用心」を呼びかけた。
下浜消防分団の方から消火器の使い方の指導を受けた。
- ・世代間交流～一度延期したものの、中止とした。 (長浜親睦会)

- ・世代間交流～9月の地区敬老会（羽川地区・長浜地区）は中止。お祝いのメダルのプレゼント作成。（地区敬老会）
- ・世代間交流～羽川百踏会会員との餅つき会。中止（羽川百踏会）
- ・世代間交流～祖父母参観は中止。保育者と幼児クラスの園児と一緒に「ひなもち」を作って楽しんだ。おひな様にお供えし、給食時に一緒に食べている。
(祖父母参観デー)
- ・保護者会環境整備～午前6時から保護者7名、職員4名で園庭や周辺の草刈り、窓掃除、テラスの簀の子の下等、普段なかなかできないところを清掃することができた。また、運動会の前にも園庭の草刈りを実施してもらった。
- ・夏まつり～幼児クラス、乳児クラスに分かれての2部制にして実施。（保護者と園児のみの参加とした。）スタンプラリー形式で、お面作り、魚釣り、ボーリング等で楽しんだ。飲食は控えた。幼児クラスの保護者には、4.5歳児による羽川剣ばやしを披露することができた。
- ・親子大運動会～保護者のみ参加、園庭で実施。子どもたちの頑張る姿を見ていただいた。
- ・おゆうぎ会～乳児クラス、幼児クラスの2部制にして実施した。消毒や換気を実施しながら開催した。保護者のみの参加があり、子どもたちの成長した姿をみていただいた。
- ・さつまいもパーティ～畑で収穫したさつまいもを園庭で焼き芋に、また、ストーブでさつまいもご飯を炊いて収穫を味わった。
- ・虫の音コンサート～中止
- ・個人面談週間～5月の一週間を個人面談の週とし、都合の良い時間帯を聞き、クラス担任と保護者で概ね20分間、子どもの様子を話し合う機会を持った。
(全園児の保護者が参加)
- ・懇談会～年1回(全クラス)忙しい時間帯（平日14:00から概ね1時間程度）ではあったが多くの保護者の参加があった。
- ・保育参観週間～密を避けるために日にちや時間帯で分け、クラスがかぶらないように全クラスを対象に実施。給食の提供は実施せず。短時間ではあったが実施することができた。
- ・卒園式／羽川剣ばやし伝達式～卒園児8名。新型コロナウイルス対策をして、卒園児、保護者、3、4児、保育者、理事長で実施。来賓については参加を控えてもらった。十分な空間を保つため、ホールをいっぱいを使って、椅子等を設置。空気清浄機を用意し、換気も行うようにした。
入学先は、日新小3名、下浜小4名、静岡県島田市立第四小1名であった。

2) 在籍状況について（別表 1 を参照）

4月、30名でスタート、3月末には34名となった。年間平均充足率は82.3%であった。

3) 地区別在籍状況について（別表 2 を参照）

4月は下浜地区の子どもの割合が53%、その他の地区の割合が47%、3月には下浜地区59%、他地区41%となっている。その他の地区としては、浜田、新屋、牛島、八橋、檜山、寺内地区となっている。

4) 延長保育利用状況について（別表 3 を参照）

年間延49人の利用があった。2年度と比べて258人の減になっている。延長保育時間は保育士や、友だちと一緒に絵本を見たり、折り紙をしたりしながら18:20以降は軽食をとってゆっくりと過ごしているが、今年度に限っては18:20を過ぎる園児がほとんどいなかった。

3年度も利用について朝の段階での申し出がほとんどであるが、18時近くに電話で依頼が入ることもあった。連絡がない場合も多々あり、その都度、保護者には分かった段階で連絡して欲しい旨を伝えている。保護者が迎えに来るまではしっかりと園児が安心して過ごせるよう対応している。

5) 一時保育利用状況について（別表 4 を参照）

年間延99人の利用があった。利用理由としては「入所前に保育所を経験させたい」「母親の就労のため」「家庭の都合」「里帰り出産」などであった。利用の際は、事前に面接を実施して、子どもの健康状態や家庭状況を把握した。利用児は同年齢のクラスで友だちと一緒に安心して過ごせるように対応した。

里帰り出産は千葉県から羽川の実家へ。3歳児クラスに入り元気に過ごすことができた。

6) 保育所開放事業(きらびか広場)について（別表 5 を参照）

保育所に入所が決まっているお子さん（保育所には兄が入所している）が主に利用した。入所になってからは、利用のない月もあった。

7) 保育事故状況について（別表 6 を参照）

年間の通院治療は3件であった。他の怪我等は消毒、カットパン、冷えピタ貼付の処置で済んでいる。

・3歳児クラス女児～昼食後、パジャマに着替えた後、とら組保育室で絵本を見て過ごしていた。絵本を前の方に持って歩いていた本児だが、絵本で前が見えなかったのか、ゴザで滑ったのか前方にボタンと大きな音を立てて転倒し、目の前にあった入り口側のロッカーの角に額をぶつけ、傷が付き流血してしまった。

受診した結果、傷の深さは5ミリ程で縫合はせず、テープで傷口を塞ぐ処置となった。5日間の間にテープがとれてしまって傷口が開いてしまうようであれば再通院して欲しいとのことだった。その後、気にすることはなく、通院は一度で終了している。後日ぶつけたロッカーの角にクッション材をまき安全を確保するようにした。

保育者の全体把握ができておらず、普段通りに絵本を読んでいる、絵本を持って走っていた訳ではないため、大丈夫だろうという間違った思い込みがあり、転倒することを予測できなかった。ゴザを入り口側ではなく、食後にテーブルをよせ、保育室の真ん中に敷くことで広くなり子どもたちの行動も把握しやすくなることを確認しあった。

・3歳児クラス男児～食後に保育室で椅子を片付けようと運んでいた際に、他児が椅子を重ねようとしているところに本児もいて椅子を重ねようと持ち上げた際に椅子の背もたれの上の部分が唇に当たってしまったようで泣き出す。下唇が赤くなっていたが出血はしていなかった。午睡前にペーストを塗布する際に右前歯の歯茎から出血とぐらつきを確認した。

受診し、レントゲンをとったところ、本来あるはずの歯の根元が吸収されて短くなっていること

から以前も何回かぶつけたことが分かった。そのため、蓄積されたところに今回もぶつけてしまったことによって、ぐらつきと出血がおこったとのこと。乳歯が生え替わる一つの過程ととらえ様子を見ていくことにした。本児は普段から落ち着きのない姿が見られることから、椅子の正しい持ち方や、周りを見てから行動するよう再度伝えた。また、どんな小さなケガでも視診を怠らないよう気をつけていくようにすることを職員間で確認し合った。

・2歳児クラス女児～保育者や異年齢児と共にソリ遊びをしていた際、本児のみソリに乗せ、保育者も隣にソリを用意して座り、同時に滑った。本児が乗っていたソリはバランスを崩して転倒して、顔を固い雪に擦り赤くなってしまった。直後は少し赤くすり傷になっているものの目立たず、様子を見ていた部屋に戻る時に玄関で主任と会い、上記の件は話したが、改めて報告はしなかった。時間が経つにつれて赤みがまし、傷が目立つようになっていったが、所長・主任には報告しなかった。

迎えにきた母親に遅番勤務保育者がケガの経緯を伝えた。その後に連休を控えていたため、当日19:00過ぎに所長が保育所から母親に連絡を入れて19:20に話すことができた。怪我のことを謝罪すると共に、休み明けの月曜日に保育所から通院することを伝えた。

連休明け(3日間)に登所した本児の様子は、赤みやすり傷は少し治まっていたものの、右頬や鼻の下にはかさぶたがあり、時々触っている状態であった。登所後、のりこ皮膚科に通院。傷の具合は治りかけているものの、傷跡が残らないように、軟膏を1日3回塗布して様子を見ることとなった。通院はこの一回で終了となった。

保育者が危険を予測するのに欠けていた。1歳児にもかかわらず、数回保育者とソリあそびをしていて慣れてきていると誤った判断をしたため、このようなことが起きてしまった。雪遊びの際は雪の状態を見て、子どもの姿勢や年齢、発達にあった遊びを考えたり、ソリ遊びを楽しむとしても乳児クラスは必ず保育者が一緒に乗り、安全に遊べるようにすること、報告を確実にしてその上で対処することを再確認する。

・0歳児クラス男児～保育室で離乳食を食べさせている時に、保育者が銀杏型の薄切りリンゴを、細かくせずに口に入れたところ、ほとんど噛まずに飲み込み、のどに詰まらせてしまう。背中を叩くが、詰まったままで苦しんでいたため、椅子から下ろし頭を低くして背中を強く叩き救急措置を行うと、すぐに詰まったリンゴが出てくる。その後、落ちついてから、離乳食を食べた。本児は咀嚼が上手くできないことは分かっており、サラダの中にあつた薄切りのリンゴは食べられるか試してみたいと思った。その日は本児と1対1でじっくり観察できる状況だったこと、詰まってしまうことも想定し自分で対応できると思い担任に相談し「無理だと思う」と言われたが食べさせてしまった。事故と言う意識が全くなく、保護者への対応が遅くなってしまった。しっかりと伝え、その後の変化や異変について確認をしなければならなかった。また、職員個人の思い込みで対応することは非常に危険であり、事象の受け止め方について職員間で話し合い、これからの課題として改善すべき点が見えた。

幼い子どもの命を預かっているという重大さを改めて意識し、初心にかえて安全安心を基本と保育を心がけていくことを確認し合った。

保育事故状況については前年から比べると、乳児クラスは54件の減、幼児クラスは70件の増となっている。事故の時間帯については、前年同様、乳児クラス、幼児クラス共に10:00～11:00が1番多くなっている。(全職員が揃い活動が本格的になる時間帯)

乳児クラス、幼児クラスとも、要因としては遊具・備品等の使用中に発生した衝突や転倒が多くなっている。保育環境(自然環境)等への配慮・見通しが足りなかった。

受傷状況については打撲、擦過傷、切り傷等があげられる。(打撲についてはぶつけて皮膚が赤くなったケースも含まれている。)

ヒヤリ・ハットについては3件。保育者が予想できない事故も発生している。発生した際にすぐ

に報告し、次に遊ばせる時に気をつけていれば、発生しなかったと思われるケースもあったため、すぐに報告して周知しなければならなかった。子どもたちや保護者が安心して過ごせるように保育者は環境構成を整えることはもちろんのこと、保育者同士の報告、連絡をしっかりとして様々なことにきめ細やかな配慮ができるよう努めていく。

8) 意見・要望等受付状況について (別表 7 を参照)

個別の文書や口頭による意見や要望の受付は 2 件。祖母からは母親のことを子どもに言わないで欲しい。母親からは雪遊びについて自然状況等を把握して安全に遊ばせて欲しい。という内容であった。両方共に説明して、理解を得ている。4 月 28 日、苦情解決第三者委員会を開催して、3 年度意見・要望等受付状況および保育事故状況について報告した。

9) 与薬依頼状況について (別表 8 を参照)

年間を通じて保護者より依頼を受けて行っている。継続して使用する薬に関しては、1 週間単位としている。

夏場の虫除けスプレーについては保育所で用意した物を使用した。使用に当たっては保護者からの同意書で確認している。

年間を通じて与薬の件数が少なかった。

10) 感染症発生・罹患状況について (別表 9 を参照)

年間を通じて感染症に罹患する園児がいた場合は、感染状況を玄関先に掲示して保護者に知らせ、注意を呼びかけた。

3 年度は、感染症の罹患が非常に少なく、玄関先での手指消毒や保護者、保育者、2 月から幼児クラスのマスクの着用をして対応したことが功を奏していると思われる。心配したインフルエンザ罹患児はなしであった。

新型コロナウイルスの罹患児はいなかった。だが、家族が罹患してしまうケースがあったものの、家族の発熱と同時に保育所を欠席していたため、広がることなく通常通りの保育を実施することができた。ただ、保育者の子どもの保育園や小学校が休園、学級閉鎖、休校に伴い、保育所を休まなければならないケースが発生した。そのため、6 名の保育者が特別休暇を取得した。その分、出勤保育者でカバーしあいながら業務を行った。全保育者で協力しながら保育業務ができたことは良かった。4 年度も継続していきたい。

11) 内科健診・歯科健診

6 月 1 日、11 月 9 日、嘱託医三浦医師による内科健診を実施した。全園児 2 回の健診を受けている。

6 月 3 日、嘱託医西村歯科医師による歯科健診を実施した。全園児が健診を受けた。

健診の結果については、「健診結果のお知らせ」として全家庭へ口頭で報告した。内科健診ではとくに問題のある子どもはいなかった。11 月の内科健診では 4 歳児がキッズステップノートを保護者に記載してもらった。保護者の園児に対しての思いも知ることができた。

12) 障がい児保育実施状況について

4 歳児、5 歳児各 1 名が医療療育センターに定期的に通院、9 月から 5 歳児 1 名がオリブ園へ通所している。

保育士が子どもたちにどう関わっていくべきか、保護者とも連絡を密に取りながら保育をすすめている。2 人共に成長はしているが、コロナ禍なこともあり、医療療育センターには出向けなかった。今年度から栗田養護学校の先生を招いて上記の子どものことについても相談している。様々なヒントをもらい、保育に活用させてもらった。4 年度も引き続き栗田養護学校の先生に来所しても

らう予定。

1 3) 他機関との連携について

秋田市子ども未来センターからの依頼により、要観察世帯として2世帯3名(3歳児、5歳児の姉弟、5歳児)の園児、家庭の状況について、3ヶ月毎に文書で報告している。12月で1世帯(4歳児)が要観察世帯から外れている。1世帯は3月で県外へ転居となった。

1 4) 保育の質及び質の向上に向けた取り組み状況について(別表10を参照)

3年度は栗田養護支援学校の教諭を招いて、気になる子どものことについて相談をし、助言をしてもらった。全職員が参加することはできなかったが、後から情報を共有した。

キャリアアップ研修の受講が多く、年間を通じた継続的な研修会が多かった。コロナ禍であったため、リモートで研修することもあった。レポートは期限内に提出することができた。

1 5) 短時間保育について

特になし

1 6) 広域入所について

特になし

1 7) 休日(日曜)保育実施について

令和3年4月から開始した。保育所パンフレット、ホームページの更新、秋田市のホームページにも情報が掲載された。だが、思うように利用人数が増えないことから、保育者で検討を重ね、ポスターやちらしを工夫し掲示等に力を入れた。だが、他園の保護者からの問い合わせはなかった。当保育所園児が3名、延べ5名の利用であった。事業開始初年度は少ない利用にとどまったが、来年度もアピールを継続し、利用増進に努めていきたい。職員間でも事業実施の必要意義については共通認識を持つことができています。

【クラス状況】

(こうさぎ組・0歳児)

大人との関わりから友だちとの関わりが増えてきているため、その都度仲立ちしながら友だちとの関わり方を繰り返し伝えていき、一緒に遊ぶ楽しさを味わっていけるようにした。

喃語や指さし、仕草なども増えているため絵本や手遊びなどをたくさん取り入れてスキンシップを楽しんでいけるようにした。

初めての雪遊びも回数を重ねることで少しずつ慣れて、雪上を歩いたり自ら雪に触れてみる姿もあり冬の遊びを体験することができた。

(クラス担任 角田 有乃)

(うさぎ組・1歳児)

個人差はあるが、言葉をたくさん覚え保育者や友だちとやりとりを楽しむ姿が多く見られるようになった。友だちと同じ役になりきって言葉を話しながら一緒にごっこ遊びを楽しむこともできるようになった。言葉を話せるようになると、歌を覚え好きな歌を口ずさみ伝染してみんなで歌って笑い合う姿も見られるようになり、遊びながら表現力が育まれていったと思う。みんなで楽しんでいる空間を大切にしていき、手遊びや歌、絵本など保育に取り入れ広げていけるようにした。

自然物や様々な玩具に触れる機会を作ったり、じっくり遊べる環境を用意していき、保育者も一緒に遊んでいくことで、それぞれ好きな遊びをみつけることができていた。

雪遊びでも繰り返し楽しむことで、遊び方を知ったり興味を持ち始め次第に積極的に雪や氷に触れて遊ぶことができた。

身の回りのことも、保育者が側についていなくても自分でできることが増え、衣服の着脱もでき

るようになった。できたことは存分に誉め一緒に喜び、難しい子には側について励ましたり手伝ったりして、自分でできた達成感や喜びを味わえるよう対応していった。

(クラス担任 米山 晶子)

(こあら組・2歳児)

進級が近づくにつれ、進級を喜び期待する姿が見られるようになってきていた。何事にも「とら組さんになるから」と身の回りのことに対しても意欲的に取り組もうとする姿を十分に認めてあげながら過ごすようにした。友だちとの関わりだけでなく、年上児とのかかわりも多く持ち、一緒に遊んだり過ごしたりした。クラスの中だけではどうしても味わえない経験をすることで刺激を受けることができたと思う。簡単なゲームを楽しみながら、子どもたちなりに勝ち負けに対して喜んだり悲しんだりする姿も見られた。その気持ちを受け止め次につなげられるように声をかけたり寄り添ったりしていくようにした。

まだまだ子どもたちの関わりの中で自分の気持ちだけ一方通行になってしまいがちだったため、保育者が仲立ちし代弁してあげながら、相手の気持ちを伝えてあげるようにした。相手にも思いがあるということを幼いながらも繰り返し伝えていくことで、これからより関わりが深まってほしいと思う。

(クラス担任 佐藤 愛理香)

(とら組・3歳児)

進級に期待を持って過ごす中で、身の回りのことにおいて、自分から取り組んでみようとする積極的な姿が見られていた。当番活動では、食事の配膳に張りきって取り組み、一つ一つ丁寧に配膳できていた。できた喜びを味わえるように、張りきる気持ちを受け止め、誉めていくようにした。

雪山滑りやソリ遊び、ままごとを通して、全身で雪に触れ、感触を楽しみながら遊ぶ姿があった。

卒園式やお別れパーティーに向けて年上児と活動することが多かったため、年上児との関わりが増え、一緒に遊ぶ中で遊びも広がってきていた。

(クラス担任 土田 瑠美)

(きりん組・4歳児)

卒園式に向け練習に参加することで、雰囲気を楽しんでいた。集中して参加している姿も見られた。お別れパーティーに向けての活動を通し年下児との関わりも深まってきていた。司会をすることに対し、張り切っていたりお別れパーティーに期待を持って過ごしていた。また進級をすることに期待を持つ反面、年長児との別れを寂しがらる姿も見られていた。

友だちと一緒に雪だるまを作ったりソリを楽しんだりし、冬ならではの遊びを存分に楽しんでいった。

時計を気にしたり、時間を見たりして過ごすことができるようになってきた。友だち同士で教える姿も見られるようになってきているため、繰り返し伝えるようにしていった。

(クラス担任 佐々木 奏)

(ぞう組・5歳児)

冬ならではの遊びを全身で楽しみ、友だちや保育者との触れ合いや関わりを広げていくことができた。就学に向けて生活リズムを整えていたり、意識して身の回りのことに取り組んだりすることで自分でできる範囲も広がっていった。卒園式に向けた取り組みも、一人ひとりが意欲を持って進めていくことで、自信につながっている姿も見られた。個人差はあるが、個々の成長が大きく感じられ、前向きな言葉かけや促しが大切なことに改めて気付かされるが多かった。

(クラス担任 嵯峨 志穂)

(給食)

献立内容によって残食量の増減はあった。依然として野菜類が多かった。しかし、取り分けて食

べることで、完食したという自信を少しずつもつことができたようだ。離乳食の進み具合が遅い児童については、家庭とも連絡を取り合いながら対応した。アレルギー対応児童は2名、完全除去食で対応した。

(調理員 田口 眞希子)

【総務総括】

1) 職員状況

3年度職員(常勤職員13名)の年休取得状況は1人当たり平均取得日数18.5日(最少11日、最多26日)平均取得率は58.1%であった。子の看護休暇についても対象職員は取得して子どもの看護に充てている。

時間外勤務については1か月平均4.0時間、年間職員1人当たりの平均時間は4.0時間であった。時間外勤務の主な理由は行事関連、急な年休取得による保育の補完によるものが多かった。前年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症対策のため行事の中止や変更、また振替休日として処理したことにより、一人当たり約8.0時間程度減少している。

2) 施設設備保守管理状況

- ・業務用室内オゾン除菌脱臭器エアフィーノ1台(新型コロナウイルス感染症対策事業補助金)
- ・テラスオーニング修理(県火災共済保障)
- ・園庭遊具鉄棒の入れ替え
- ・0歳児保育室エアコン入れ替え
- ・ホールストーブ1台入れ替え
- ・ノートパソコン1台入れ替え
- ・ホール照明LEDへ交換

3) 運営状況

入所児童の充足率は年間平均82.3%で定員に達することはなかった。3年度は給付費に休日加算(332万円)、高齢者等活躍加算(75万円)が加算された。補助金関係では、新型コロナウイルス感染症対策事業補助金(40万円)が給付された。職員配布用エプロン、マスク、ハンドクリーム、エアフィーノ1台購入に充当した。

延長保育補助金(30万円)については、補助金対象となる時間(18:15以降)の利用児数が基準に満たないため対象とはならなかった。

3年度は人件費比率(総収入に占める人件費割合)は80.3%(2年度は76.5%)となっている。2年度は職員の途中退職や育休取得があったが、3年度は7月に育休から1名が復帰となった。入所児数が減少しているが、各種加算、補助金を受け、積立金の取崩しをすることなく終えることができた。

別表1【在籍状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延計	平均 (人)	占有率 (%)
	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日	初日
0歳児				1	1	1	3	5	6	6	6	6	35	2.9	8.8
1歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4	12.2
2歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4	12.2
3歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9	27.3
4歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5	15.2
5歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96	8	24.3
計	30	30	30	31	31	31	33	35	36	36	36	36	395	32.9	
充足率 %	75	75	75	77.5	77.5	77.5	82.5	87.5	90	90	90	90	82.3	82.3	

別表2【地区別在籍状況】

		下浜地区							その他の地区					計(人)
		羽川 (人)	長浜 (人)	八田 (人)	名ヶ沢 (人)	陽光 台 (人)	地区 計 (人)	占有率 (%)	新屋 (人)	浜田 (人)	その他 (人)	地区 計 (人)	占有率 (%)	
0歳児	4月末	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9月末	0	0	0	0	2	2	67	1	0	0	1	33	3
	3月末	0	1	0	0	3	4	67	2	0	0	2	33	6
1歳児	4月末	0	1	0	0	0	1	25	1	0	2	3	75	4
	9月末	0	1	0	0	0	1	25	1	0	2	3	75	4
	3月末	0	1	0	0	0	1	25	1	0	2	3	75	4
2歳児	4月末	1	0	0	0	2	3	75	1	0	0	1	25	4
	9月末	1	0	0	0	2	3	75	1	0	0	1	25	4
	3月末	1	0	0	0	2	3	75	1	0	0	1	25	4
3歳児	4月末	4	1	0	0	0	5	56	2	1	1	4	44	9
	9月末	4	1	0	0	0	5	56	2	1	1	4	44	9
	3月末	4	1	0	0	0	5	63	2	1	0	3	37	8

		下浜地区							その他の地区					
		羽川 (人)	長浜 (人)	八田 (人)	名ヶ沢 (人)	陽光 台 (人)	地区 計 (人)	占有率 (%)	新屋 (人)	浜田 (人)	その他 (人)	地区 計 (人)	占有率 (%)	計(人)
4歳児	4月末	2	1	0	0	0	3	60	0	2	0	2	40	5
	9月末	2	1	0	0	0	3	60	0	2	0	2	40	5
	3月末	2	1	0	0	0	3	60	0	2	0	2	40	5
5歳児	4月末	1	3	0	0	0	4	50	3	0	1	4	50	8
	9月末	1	3	0	0	0	4	50	3	0	1	4	50	8
	3月末	1	3	0	0	0	4	57	3	0	0	3	43	7
計	4月末	8	6	0	0	2	16	53	7	3	4	14	47	30
	9月末	8	6	0	0	4	18	55	8	3	4	15	45	33
	3月末	8	6	0	0	5	20	59	9	3	2	14	41	34

別表3【延長保育利用状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延計	平均
		乳児	実数	0	0	1	1	0	0	2	0	1	2	1	2
延数	0		0	1	2	0	0	2	0	2	3	1	6	17	1.4
幼児	実数	3	2	2	0	2	2	2	2	1	1	0	3	20	1.7
	延数	9	3	3	0	2	2	3	3	1	3	0	3	32	1.7
計	実数	3	2	3	1	2	2	4	2	2	3	1	5	30	2.5
	延数	9	3	4	2	2	2	5	3	3	6	1	9	49	4.1
	世帯数	3	2	3	1	2	2	4	2	2	3	1	4	29	2.4

別表4【一時保育利用状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延計 (人)	平均 (人)
乳児	実数	0	1	2	1	1	5	3	0	0	0	0	0	13	1.1
	延数	0	1	10	2	2	17	6	0	0	0	0	0	38	3.2
幼児	実数	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5	0.4
	延数	0	0	0	8	15	15	15	8	0	0	0	0	61	5.1
計	実数	0	1	2	2	2	6	4	1	0	0	0	0	18	1.5
	延数	0	1	10	10	17	32	21	8	0	0	0	0	99	8.3
	世帯数	0	1	2	2	2	6	4	1	0	0	0	0	18	1.5

別表5【保育所開放事業利用状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延計 (人)	平均 (人)
乳児	実数	△	3	3	2	△	1	1	0	0	0	0	△	10	1.1
	延数	△	3	3	2	△	1	1	0	0	0	0	△	10	1.1
幼児	実数	△	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	△	0	0
	延数	△	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	△	0	0
計	実数	△	3	3	2	△	1	1	0	0	0	0	△	10	1.1
	延数	△	3	3	2	△	1	1	0	0	0	0	△	10	1.1
	世帯数	△	3	3	2	△	1	1	0	0	0	0	△	10	1.1

別表6【事故発生状況】

事故件数（乳児クラス）

	かみつ き	ひかつき	転倒	転落	乱暴行 為	薬関係	誤飲・誤 食	衝突	自然物によ るもの	遊具・備品 によるもの	その他	計
件数	2	1	18				1	19	4	30	15	90

受傷状況

	擦過傷	裂傷	打撲	骨折	肘内障	切り傷	刺し傷	咬傷	内出血	その他	鼻血	計
件数	20		41			10		2		17		90
受診	1											1

時間帯

	7:00~ 8:00	8:00~ 9:00	9:00~ 10:00	10:00~ 11:00	11:00~ 12:00	12:00~ 13:00	13:00~ 14:00	14:00~ 15:00	15:00~ 16:00	16:00~ 17:00	17:00~ 18:00	計
計		5	6	20	14	3		7	10	17	8	90

事故件数 (幼児クラス)

	かみつ き	ひかつ き	転倒	転落	乱暴行 為	薬関係	誤飲・誤 食	衝突	自然物によ るもの	遊具・備品 によるもの	その他	計
件数		2	24					10	19	60	21	136

受傷状況

	擦過傷	裂傷	打撲	骨折	肘内障	切り傷	刺し傷	咬傷	内出血	鼻血	その他	計
件数	58		30			15				2	31	136
受診			1			1						2

時間帯

	7:00~ 8:00	8:00~ 9:00	9:00~ 10:00	10:00~ 11:00	11:00~ 12:00	12:00~ 13:00	13:00~ 14:00	14:00~ 15:00	15:00~ 16:00	16:00~ 17:00	17:00~ 18:00	計
計		4	15	39	27	15	2	5	5	18	6	136

別表7【意見・要望受付状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
件数	文書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口頭	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.2
計	文書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口頭	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.2

別表8【与薬依頼状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)	平均(人)
粉薬	12	3	5	6	3		17	29	20	9	4	4	112	9.3
液薬	10			7		5		22	17				61	5.1
外用薬				2	1		16				8	8	35	2.9
虫除けスプ レー等		30	30	30	31	33							154	12.8
計	22	33	35	45	35	38	33	51	37	9	12	12	362	30.2

別表9【感染症発生・罹患状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)	平均(人)
溶連菌感染症			1										1	0.1
おたふく				1									1	0.1
ノロウイルス										2			2	0.2
感染性胃腸炎										4			4	0.3
計			1	1						6			8	0.7

別表10【日曜保育利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
人数	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	5	0.4

